

2019 年 10 月

一般社団法人 日本建設業連合会

2020 年 日建連表彰

第 1 回 土木賞 募集要項

本会は、次のとおり第 1 回土木賞の候補プロジェクト・構造物の募集を行います。

◎選考委員会委員（敬称略、順不同）

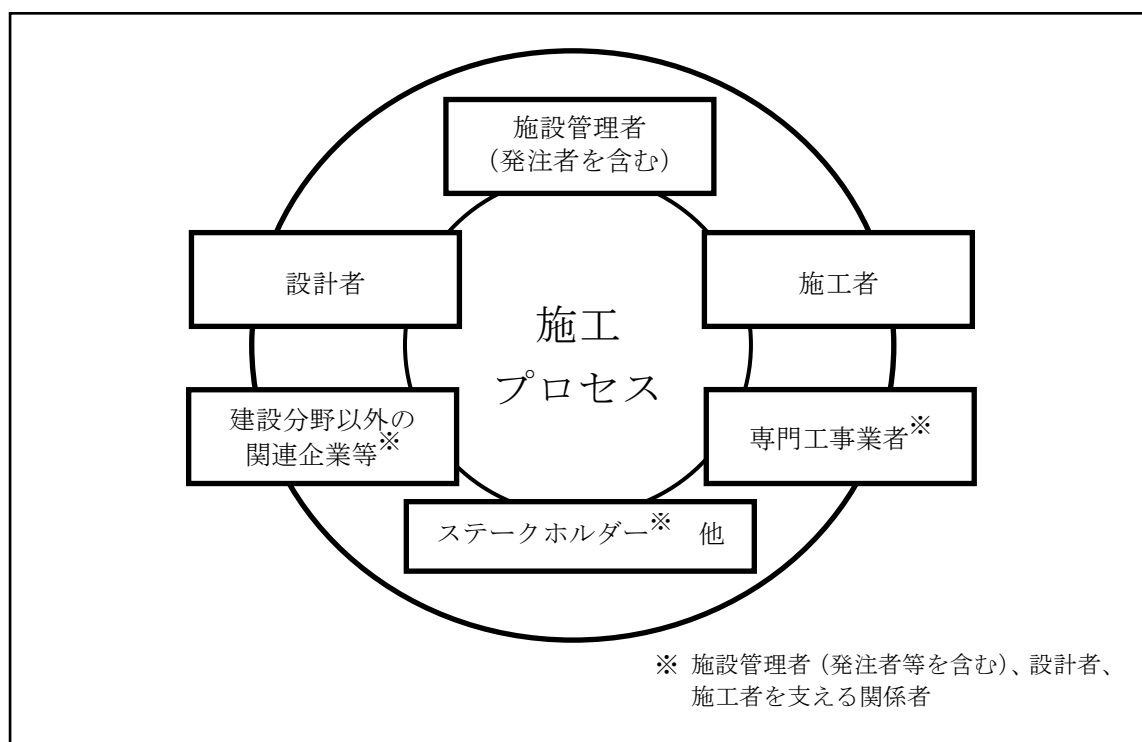
木村	亮	（京都大学）
岩波	基	（早稲田大学）
田島	芳満	（東京大学）
東川	直正	（国土交通省）
野中	賢	（日経 B P）
酒井	利夫	（建設コンサルタンツ協会）
豊岡	司	（日本建設機械施工協会）
樋口	義弘	（清水建設）
曾根	浩	（安藤・間）
東野	光男	（大林組）

日建連表彰 第1回土木賞 募集要項

1. 目 的	日建連表彰 第1回土木賞は、毎年、優良なプロジェクト・構造物を表彰することにより、土木に係わる事業企画の質、及び計画・設計、施工、環境、維持管理、その他土木技術の進歩向上を図り、もって良好な土木資産を創出し、わが国の国民生活と産業活動の基盤の充実に寄与することを目的とする。
2. 募集期間	2020年1月6日（月）から同1月31日（金）17時までに事務局（土木第一部）に必着のこと。
3. 選考の範囲	土木分野のプロジェクト・構造物で、2019年12月31日までに概ね竣工したもの。
4. 応募の手続き	<p>(1) 応募申込み</p> <p>○申込みは、施設管理者（発注者等を含む。以下同じ。）、設計者、施工者とこれを支える関係者※1のいずれかが行う。この場合、必ず応募者は、あらかじめ施工にあたり協働した他の関係者の了解を得ることとする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※1 施設管理者、設計者、施工者を支える関係者とは、専門工事業者のほか、建設分野以外の関連企業等（例えば、ICT、ロボット等の技術開発に関係した建設分野以外の研究者や企業）、ステークホルダー（例えば、ダム再開発事業の利水者）などが想定される（別表-1 参照）。</p> </div> <p>(2) 提出する書類等</p> <p>（第一次選考）</p> <p>イ 応募申込書（別記様式）</p> <p>ロ 応募プロジェクト・構造物の説明書（別記様式）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画、設計、施工その他プロジェクト・構造物の特徴について、要点を簡潔に表現し、評価すべき内容を明らかにすることが望ましい。 ・施工にあたり協働した関係者の貢献度についても記載すること。 <p>ハ 図面（位置、平面、縦断、横断。縮尺は適宜）</p> <p>ニ 構造・設備・施工の技術的特徴を説明する資料</p> <p>ホ 写真</p> <p>※2 上記全ての書類等1部―及びその電子データ（「提出する書類の作成上の注意事項」参照。）</p> <p>（第二次選考）</p> <p>ヘ パワーポイント（電子データ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選考委員会に対する説明で使用する資料として、プロジェクト・構造物の内外観、工法、その他企画や技術等の特徴が良く表現されているもの。 <p>(3) その他</p> <p>イ 上記以外に、追加質問への対応や、資料の追加を求めることがある。</p> <p>ロ 日本建設業連合会（以下「本会」という。）は、(2)の資料の作成に要した費用は負担しない。</p> <p>ハ 提出資料（(2)ハ、ニ及びホ）は、選考終了後、申し出により返還する。</p>

<p>5. 選考の方法 及び決定</p>	<p>(1) 選考は、本会内に設置する土木賞選考委員会の合議に基づき、次により行う。</p> <p>イ 第一次選考 提出された応募申込書、応募プロジェクト・構造物説明書及び資料に基づいて選考する。</p> <p>ロ 第二次選考 第一次選考で選ばれたプロジェクト・構造物を対象に、応募関係者の立会いのもとに行う現地調査及び応募関係者からの説明に基づいて選考する。</p> <p>選考委員会の説明聴取は東京で行い、応募関係者は、パワーポイントを用いて 15 分以内で説明（選考委員会から事前送付する質問への回答を含む）するものとする。</p> <p>(2) 選考は、プロジェクト・構造物の事業企画、及び計画・設計、施工、環境、維持管理等に関する総合評価により行うものとする。この際、施工プロセスの視点（施工プロセスの改善、良質な社会資本の効率的創出、土木技術の発展・伝承など：別表-2 参照）を重視する。プロジェクト・構造物の評価は、土木賞の選考基準に基づいて行う。</p> <p>(3) 受賞プロジェクト・構造物は、選考委員会の選考結果に基づき、日建連表彰委員会で決定する。</p>
<p>6. 表 彰 等</p>	<p>(1) 優良なプロジェクト・構造物 10 件内外（特別賞を授与する場合はこれを含む）を表彰する。なお、固有の課題に対する取組み（施工プロセスを支えた活動、技術開発など）で優れているプロジェクト・構造物を特別賞として表彰することがある。</p> <p>(2) 受賞プロジェクト・構造物が決定したときは、当該構造物の施設管理者、設計者及び施工者とこれを支えた関係者（以下「受賞者」という。）に通知するとともに、新聞、雑誌等に公表する。</p> <p>(3) 表彰は、受賞者に対してそれぞれ表彰状を贈るほか、次のとおり表彰パネル及び賞牌を贈呈する。</p> <p>イ 施設管理者には、受賞プロジェクト・構造物に取り付けることができるブロンズ製の表彰パネル</p> <p>ロ 設計者及び施工者（共同企業体の場合は、代表者）、並びにこれを支える関係者には、賞牌</p> <p>(4) 表彰式は、2020 年 11 月 13 日に東京で行う。</p>
<p>7. 受賞プロジェクト・構造物の紹介、及び著作権</p>	<p>(1) 本会は、受賞プロジェクト・構造物をわが国の土木分野の代表的プロジェクト・構造物として、第 1 回土木賞プロジェクト・構造物集の公表などにより広く内外に紹介する。</p> <p>(2) 受賞者は、本会が受賞プロジェクト・構造物の関係資料を掲載、展示等啓発の目的に使用する場合には、無償で貸与するものとする。</p> <p>(3) 受賞プロジェクト・構造物の応募資料として提出された写真等について、当会は編集出版権を持つものとする。</p> <p>(4) 応募者は、受賞プロジェクト・構造物集等及び本会ホームページに写真等が掲載されることを前提に、写真等について他者の著作権及び第三者の肖像権が侵害されることの無いよう予め適切に措置するものとする。</p>
<p>8. 提 出 先</p>	<p>一般社団法人 日本建設業連合会 事務局（土木第一部）</p> <p>〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2－5－1 東京建設会館内</p> <p>電話 03-3552-3201 FAX 03-3552-3206</p>

別表-1 施工プロセスに貢献した多様な関係者



別表-2 「施工プロセスの視点」の例

<p>施工プロセスの改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ コストの低減 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 建設費の低減 ✓ ライフサイクルコストの低減 ✓ 補償費等の抑制 ➤ 環境の維持 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 建設工事に伴う公害の防止 (騒音・振動・水質汚濁・大気汚染等) ✓ 施工中の景観の保全 ✓ 作業環境の改善 ✓ 自然環境の保全 ✓ CO2 排出量削減 ➤ 交通の確保 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 規制時間の短縮 ✓ 交通ネットワークの確保 ➤ 特別な安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 第三者の安全確保 ✓ 施工者の安全確保 ➤ 省資源又はリサイクル <ul style="list-style-type: none"> ✓ エネルギー消費量の削減 ✓ 建設副産物の発生量削減 	<p>良質な社会資本の効率的創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 構造物の性能・機能の向上 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 耐久性の向上 ✓ 強度の向上 ✓ 美観の向上 ✓ 供用性の向上 ➤ 安全・安心の向上 ➤ 生産性向上 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 工程短縮 ✓ 限定された期間内での確実な施工 ✓ 情報共有システムの活用 ✓ 情報化施工 ✓ プレキャスト化 ✓ 機械化・ロボット化 ✓ 省人化 ✓ i-Construction
	<p>土木技術の発展・伝承</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 技術伝承の取り組み、育成 ➤ 建設業を取り巻く他産業との関係強化 ➤ 新しい建設システム ➤ 特別な事業マネジメント
	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 建設業のイメージアップ活動 ➤ 社会貢献活動 ➤ 復興支援 ➤ 特別な地元対策 etc

日建連表彰 第1回土木賞

選考基準

(選考の基本方針)

第1 日建連表彰 土木賞の選考は、プロジェクト・構造物の事業企画、計画・設計、施工、環境及び維持管理等に関する総合評価に基づいて行うものとする。この際、施工プロセスの視点（施工プロセスの改善、良質な社会資本の効率的創出、土木技術の発展・伝承など）を重視する。

(施工プロセスに貢献した多様な関係者)

第2 施工プロセスに関係する施設管理者（発注者等を含む）、設計者、施工者とこれを支える関係者の相互の協力関係が良好であり、適正な価格により正常な施工が行われ、その結果、優良な構造物が構築されているものを選考に当たって重視するものとする。

(安全)

第3 選考に当たっては、安全に充分配慮して、企画、設計及び施工が行われていたかについて留意するものとする。

(評価項目)

第4 以上のほか、選考に当たっては、次の事項に留意し、評価するものとする。

- 事業企画……構造物に係わる事業プログラムの健全性、社会的ニーズへの適合性
- 計画・設計…構造形式・景観等の斬新性、適切性、技術の先進性
- 施工……………施工技術・管理手法の斬新性・効率性、難条件の克服度
- 環境……………地域環境との調和、地球環境への配慮、構造物周辺環境の整備
- 維持管理……設計・施工時における竣工後の検査、維持管理を考慮した工夫、及び施設の運用性、ライフサイクルに係わる波及性

(特別賞)

第5 特別賞は、施工プロセスを支えた活動、技術開発などに対する固有の課題への取り組みで優れているプロジェクト・構造物を選考する。

提出する書類の作成上の注意事項

応募者は下記の要領に従って、所定の様式により応募書類等を作成するとともに、全ての書類等の電子データをCD-R又はDVDなどに収録すること。

(第一次選考)

イ. 応募申込書

日建連表彰 土木賞で定める建設関係者は、各工事に関係した者の中で貢献度の高い者とする。施設管理者（発注者等を含む）、設計者及び施工者等は、全ての者がそろわない場合でも応募できる。また、発注者等には、契約書に記載されていない工事担当事務所も含む。

＊ 共同で業務に従事した場合には、応募に当たって、関係者名の表示等について関係者間での同意を徹底すること。

＊ 応募者について、選考の過程で適格性を確認し、変更を求めることがある。

ロ. 応募プロジェクト・構造物説明書

原則として、規定の用紙に記入し、所定の事項は必ず記述する。

ハ. 図面：A3判 5枚以内

鮮明でわかりやすいものとし、製本はしない。図面に写真は入れないこと。

ニ. プロジェクト・構造物の技術的特徴を説明する資料：A4判 3枚以内

書式は自由。写真やグラフ等を用い、構造・設備・施工それぞれのPRポイントを潔にまとめること。

ホ. 写真：15枚以内

キャビネ判サイズで、A4判 写真専用紙に印刷（又は白い台紙に貼付）するとともに、JPEG形式にて電子データを作成すること。

(第二次選考)

第一次選考で選ばれたプロジェクト・構造物を対象に、応募関係者によるパワーポイントの資料を用いた説明の機会を設ける。

また、別途、応募関係者の立合いのもとに現地調査を実施する。

ヘ. パワーポイント：電子データ（ppt）

第二次選考における説明は、プロジェクト・構造物に関するプレゼンテーション15分及び質疑5分とする。パワーポイントには、動画も可とするが、15分で説明可能な枚数のみとし、説明しないパワーポイント及び追加資料の提出は認めない。

なお、選考委員会から第二次選考に先立ち質問書が送付された場合は、15分のプレゼンテーションの中で回答するものとする。